



花の会ニュース

2026年4月号
no. 208

編集人/ 社会福祉法人 花の会 広報委員会 連絡先/ 〒569-1042 高槻市南平台 3-29-9

TEL 072-692-2859 FAX 072-693-3603

★WEB <https://hananokai.info/>

★E-mail hana-net@minos.ocn.ne.jp

発行人 2000年12月12日第三種郵便物承認
関西障害者定期刊行物協会 大阪天王寺区真田山町2-2 東興ビル4階

毎月(1・2・3・4・5・6・7・8の日)発行

定価100円

第59回

花の会バザー

のお知らせ

皆さま、お誘いあわせの上

ご来場をお待ちしています。

日時：2026年5月17日(日) 9:30~14:00

場所：共働舎花の会敷地内、ほか

アクセス：市営バス「南平台三丁目西」バス停すぐ

※ お車でのご来場はご遠慮ください。

お問い合わせは、

第2共働舎花の会

(TEL072-697-7033) まで。

フードコーナー



リサイクルコーナー

衣類・雑貨・台所用品
食器・本・おもちゃ・かばんなど



あそびコーナー

参加無料!
あそびにきてね



手作りコーナー

手作りお菓子・ポップコーン
さそり製品など



第43回

花の会総会・交流会

のお知らせ

日時：2026年6月13日(土)
10:00 ~ 14:30

場所：高槻城公園芸術文化劇場 北館
3F レセプションルーム

主催：社会福祉法人 花の会

前半 総会(10:00~11:45)

議案

- ▶ 職員表彰式
- ▶ 法人事業報告
- ▶ 「花の会後援会」総会

後半 交流会(12:00~14:30)

過干渉と「ぎやかムード

テレビで酒蔵の紹介番組を観た。永平寺の吉田酒造、杜氏は女性で「原料以上の酒はできない」という信条で地元のお米と名水「白山伏流水」を材料とする。気になったのは「目が届く手が届く、心が届く」を大切にしている酒蔵づくりだ。

支援につなげて考える自分がある。「原料以上の酒はできない」と言われると、後天的な力を信じないといけないと思ってしまう。よく考えると素材のあり様を認めるという理解もできる。さらに「目が届く」は「目が行き届いていない」と支援に問題がある時指摘される言葉で「ドキリとする」。そこで「目」と「手」がつながって、素早い状況判断が必要なことは納得がいく。それが「心が届く」ことにつながるとは名文句だ、と感じた。

花の会は「元気があっていいね」とよく言われる。建物外を駆け回る、散策する、大声で何やら発信する。当然、室内も聴覚過敏な人は、我慢の域を出るにぎやかさだ。静かな場面も多いので誤解なきように。以前からこのにぎやかさは、メンバーの不安の表れではないのか。それも何年も続き、今に至っている。しかし、旅行中のバスの中や観光地、販売先では静かなのである。そう考えると楽しみにしているときは心が和んでいて、事業所は緊張が一杯なのか、と思える。逆に、外出の緊張が言葉や行動を制止するので、事業所ではそれから解放された状況なので自己の欲望を言語化しているとも考えられる。

支援の場では、そのようなことが支援者によく理解されていて、いろいろな言葉掛けが行われる。面倒と考える支援者もいるだろうが、メンバーに接する方法として昔から花の会では、あーでもない、こーでもない、とメンバーに誉め言葉、促す言葉が連発される。しかし、一方ではこうした声掛けは過干渉となり、ストレスを与えるものと言われる。実際、メンバーに声掛けして答えを待っている、「待つ姿勢がありますね」などと評価されてしまうが、内心は一杯話しかけて答えを引っ張り出したい欲求が渦巻いている。


「怒らない・否定しない・命令(強制)しない」を続けることで
気長に結果を待つことしかないのかも。

(やまだのかかし)

“変わるべき自分”を手放すまで

ひらの まさみ 平野 聖己さん

平野 聖己さんのプロフィール

- ✿ 年齢は30歳。
- ✿ 2020年4月から、三島地域若者サポートステーション(以下「三島サポステ」と表記)を利用。
- ✿ 趣味はゲームをすること。アクションゲームをすることが多いです。 アニメ解説の動画では、作品の中で映し出せられない作者の本音、作品の本質や制作意図などを知ることが面白いそうです。



今回は、元三島サポステ利用者の平野 聖己さんにお話を伺いました。



平野さんは、三島サポステの支援を受けて就職され、現在は安定して生活を送られていることから、利用は終了されていますが、今回インタビューにご協力くださいました。

安岡：今はどのようなお仕事をされていますか？

平野：民間学童保育で、放課後からご家族が迎えに来てくれるまでの間、一時的に子どもを預かっています。子どもが快適に過ごす居場所になれるような環境を目指しています。

安岡：働く中で、やり甲斐や自分らしさを感じるのはどのような時ですか。

平野：やり甲斐につながるのですが、最近は、子どもを叱る時です。

安岡：なぜ、子どもを叱る時にやり甲斐を感じるのですか？



平野：親に怯えていた時の自分を思い出します。自分と他の先生の叱り方を比べると、上手くいっていない感じがあります…。そこには、親に対するトラウマの気持ちもあるのかな…。子どもを叱ることで、必要のない傷つけになってしまうか、心配しています。どうすれば、上手く叱ることができるのかを考えることが、今はやり甲斐につながっています。

安岡：三島サポステを利用する前は、どのような毎日を過ごしていましたか。

平野：働いていない自分を責めそうになりながらも、「どうやったら僕は働けるのか、今の僕には何が足りないのか」などの自問自答を繰り返していました。家で過ごす時間が多くて、週に2・3回は家族の夕食を作り、親がいない時は自室で引きこもっていました。元気な時は、テレビや動画配信サイトを見て、心の病気やひきこもりについて検索したりもしていました。

安岡：社会から引きこもってしまった理由を教えてください。

平野：親がとても厳しい人だったので、人目を気にするようになり、いつしか考えることも、「今の僕には社会に出るにはまだ足りない…、未熟な僕では社会に出るほどの基準に達していない…、僕には価値はなく変わらなければいけない」と自分を責めていました。例えば中学校・高校のテストで点数が取れていないのに遊んでいてはいけないと思うようになり、いつしか追い詰めるのが当たり前になってしまい、生きる価値がないと思うようになり、ひきこもっていました。

安岡：三島サポステ利用する前、仕事やこれからの生活について、どのような思いがありましたか？

平野：三島サポステを利用するきっかけにもつながるのですが、働きたいとは思っていたけれど

も、お金をもらう責任には耐えられなかったので、働く前にボランティアをしていました。ボランティアをする中で、もう一歩先に進みたいと考えるようになりました。人生に絶望して、人生を終えるか、世の中に爪痕を残すかを考えて、恥をかきながらものがむしゃらにできることをやろうと覚悟をしていました。

安岡： ボランティアの活動はどうでしたか？

平野： ボランティアの活動にはやり甲斐も感じていましたが、ボランティアをしていればそれで良いと思おうとする中で、少ししんどさを感じることもありました。

安岡： 三島サポステの支援を受ける中で、自分自身について気付いたことや、変わったと感じることはありますか？

平野： 親を恐れていたが、心のどこかで親と仲良くなりたいたいという気持ちがあることを知りましたね…。親は自分を愛してくれる存在ではないと思っていたけど、親に愛してほしいと求めていたこと…。愛してほしいという願望が残っていたこと…。

安岡： ご両親に対しての気持ちに変化があったのですか？

平野： あとは、社会は怖くないと感じるようになりました。生きるにはもっと頑張らないと…と思っていたのですが、そんなに頑張らなくても良いと思えました。社会に出ていくのも、気持ちの面で楽になりました。

安岡： 楽になった何かきっかけがありましたか？

平野： いろいろな人と出会って人生の楽しみ方を知りました。息抜きの方法を友人から教わったことも大きいですね。

安岡： 今の自分の生き方を、以前の自分と比べてどのように感じますか？

平野： 世間体や他者の目を気にしてひきもりになってしまいました。当時、僕の中で最も恥ずかしいしみっともないと感じていた、ジャージを着てランニングに行っていた時の覚悟に比べると、今は、自分を淵に追い込んでまで、頑張られてはいないと感じます。

頑張られてはいないけど、今は気持ちの余裕が持っているし、趣味



に時間も使えるようになってきたので、それでも良いのかな？と思っています。

安岡： これから、どのように働き、暮らしていきたいですか？

平野： せめて、ジャージを着てランニングしていた時の自分に顔向けができるようには頑張っていきたいと思います。

少しズレてしまうのですが、普通になりたいという目標があって、怒ったり、泣いたり、笑ったり、愛したりして日常を楽しみたい。そして人生の最後に「よく頑張ったな」と思えるようになりたいです。

安岡： 一歩踏み出すことに勇気が持てない人に何かアドバイスはありますか？

平野： 辛い時や傷つきそうな時に無理に動かなくてもいいと思います。動けそうな時、少し傷ついても大丈夫な時に動いてほしいです。動く理由は趣味でも筋トレでもお菓子でも何でもいいと思います。1度でも外出できれば、「次に外出する時はあんなこともしたい」という思いが出て来るのでその欲に従っていれば、力がついていくと思います。

編集後記

今回のインタビューを通して印象に残ったのは、「変わる」ということの現実的な重さと、その中にある覚悟でした。ひきこもりの時期に抱えていた苦しさや、自分を追い詰めてしまう思考は決して特別なものではなく、多くの人がどこかで抱えうるものだと感じました。

一方で、ボランティアや三島サポステの利用を通じて少しずつ外とのつながりを取り戻し、自分自身の気持ちに気付いていく過程は、とても大きな変化でした。

現在は、無理に自分を追い込むのではなく、余裕を持ちながら働き、生活を整えている姿が印象的です。「普通になりたい」という言葉には、その人なりの願いや意味が込められているように感じました。

大きな一歩ではなくても、自分のタイミングで踏み出すことの大切さを、改めて考えさせられるインタビューでした。

(三島地域若者サポートステーション 安岡 大輝)

小さい頃からの成長と変化

しろ 城 みゆ き 深 幸 さん

城 深幸さんのプロフィール

- 幹人さん、兄、姉3人のお母様

城 幹人さんのプロフィール

- 5人家族、3人兄弟の末っ子
- 2月22日14時14分生まれ、2,820g
- (学生時代) 茨木市立あけぼの学園、高槻市立安岡寺小学校、大阪府立高槻支援学校 中等部／高等部
(日中) 2008年3月、「第2共働舎花の会」利用開始。
2017年4月、第4共働舎花の会たんぼぼ亭へ異動。
(グループホーム) 2014年2月、フラワーホーム「おりおん」入居。



城 幹人さん

城 深幸さんご夫妻

今回は城 ^{みきひと}幹人さんのお母様、城 深幸さんにお話を伺いました。

Q 幹人さんの生まれた頃の様子を聞かせてください。

城: 生まれた時は普通の大きさ(2,820g)だね。でもね、これでも三人兄弟の中で一番大きいのよ、これでも(笑)。予定日より17日早く生まれたのよ。

Q 生まれた時、どんな思いを持っていましたか？

城: 三人目だから、もうそろそろかな？ という感覚があって。一番目も10日早くて、二番目も14日早くて。この子は三番目やから、同じように早くなっていくかなあって思っていたの。そしたら17日早く生まれた。その頃は実家の近くに住んで、実家の二軒隣の家族ぐるみの付き合いをしていた産婦人科で生んだのよ。でもなかなか出てこなくて、今日は2月22日やと思って、語呂合わせがいいなあと思ったら、その日の14時14分に出産でした(笑)。

Q 生まれた時は元気？

城: 生まれた時は元気で、全然楽で、上2人が年子で大変だったから、よく寝てくれてあまり泣かなくて、すごく楽やった。だからこんなもんかなあ~と思って。首の座りの健診は「もう一回来てください」と言われた。1か月後に行くと、大丈夫だったし。その後1年健診も大丈夫で、1歳の時肺炎、1歳2か

月の時に熱性けいれんで入院して、ひきつけ予防の薬を飲んでいたけど、普通に生まれていたら、1歳6か月で言わなアカン言葉も言えて、1歳半健診は通ったんですよ。でもそれから言葉が出てこなくなったんだけど、うちのお兄ちゃんも言葉が遅かって、2歳半からびゃーってしゃべり出したから、大丈夫かな？と思っていた。でも実家の母が「この子は視線が合えへんよ」とか言い出して。母にそう言われたことや言葉数が増えないこともあって、医大で相談したら、保健婦さんが保健指導で自宅に来てくれたんですよ。本人を見てもらったら、「茨木市立あけぼの学園の母子通園に行った方がいいですよ」って言われちゃって…。それから母子通園に行っていたんです。普通やと思い込んでいたけど、年中さんくらいから、上の二人とは違うなあと分かって、手帳も申請して、玉造にあるスピーチクリニックとかに連れて行ったりして、何かできることは全部しようと思ってやっていたんですよ。茨木市に住んでいたんで、クリエイトセンターにある、ことばの教室にも行っていたんですよ。

Q 幹人さんの幼少時から学生時代の様子を聞かせてください。

城: 「福祉は高槻の方がいいやん」って言われていて、幹人のことを思ったら高槻の方がいいなあ…と思っていた。店の上に住んでいたおじいさんが「階段がしんどい」と言って平屋を建て出たので、帰ってきてもいいように空けてくれて、年長さんの時に帰ってきて1年は、ここからあけぼの学園まで通っていたのよ。小学校は安岡寺小学校に。

乳児の頃と違い、とにかく活発な子で、よく走り回ってシャシャーって素早かった。2階のトイレの窓から出たのよ。裏の家のトタン屋根にうまいこと出て、トタンの上を走り回っていたのよ。隣の人からうちのおじいさんに電話があって、「おまえんとこの孫が走り回ってるって」と言うから見たら、(トタ

ンの上に)居るわけよ。ほんで二人で謝りに行ったら、「大変やなあ」って言ってくれはった。近所の人たちも理解してくれはって、それからトラブルがなかったんよ。でも、何回も窓から出ていったから、危ないことはできないように、私の父が大工やってたから、ベランダに大きな柵を作ってくれた。孫がかわいいから〜。

Q 幹人さんは絵画がすごく上手ですが、いつ頃才能の開花に気付かれましたか？

城： 小学4年生の時、高槻手をつなぐ親の会の「絵画教室」があって何か描いていたから、その親の会に入ろうと思って、絵画をするようになったのよ。月1回ゆう・あいセンターで専門の先生が来てくれて、アドバイスをくれる。小学四年生から積み重ねてこうなった。今は月1回行ってるけど、最初は9名だったのに今は2名になっちゃった。自然と私がお世話係になっちゃった。そこで個性豊かな表現で画用紙いっぱい自由に描き、才能が開花したかな。支援学校でも絵では優秀やった。2004年に出展をして、障がい者アート公募展「かんでんコラボ・アート 21」で連続して入選したし、花の会作品展でも毎年のように受賞するようになった。

※文部科学省の資料の表紙に「時計」の作品が採用
 ※2023年第64回大阪知的障がい者福祉大会の冊子の表紙に「ぶどう」の作品が採用

Q 花の会を利用するきっかけは何でしたか？

城： いろんな所を見たけど、幹人は手先が器用やし、粘土をこねたりすることが好きやったから、クッキーやパンをこねこねできる製造する仕事だったら合っているかな？って思ったし、「第2共働舎花の会」ができたばかりで綺麗だったからいいかなあと思って花の会にしたのよ。毎日頑張っていたんやけど、パン班で頼りにしていた先輩メンバーが違うところに異動になったから、うちも異動しようってなったんよ。その時の施設長に相談したら、「たんぼぼ

亭」って言われた。始めはイメージがなくてエツ〜って思っていたんだけど実習に行ったらすんなりいったから、今は良かったんかなあと思ってる。

Q 花の会を利用して、お母さんから見た幹人さんの成長はありますか？

城： 1年の流れを把握できるようになったし、行事は全部把握している。

予定表を作っている机の上に置いて、ずーと見ているんですよ。知らない間に自分の予定を書き足しているんですよ(例えば、『“コーヨー”で粘土3個買う』とか、『“セブンイレブン”(行く)』)。書いたことは必ずするんですよ。買った粘土を丸めて並べているし、いっぱいになったら自分で選んで捨てている。それから色を微妙に混ぜてちょっとずつ変えている。

Q これからの幹人さんに向けてのお母さんの思いはありますか？

城： イヤなことは言葉で言ってほしい。言えるようになってほしい。我慢できなくて自傷するから、昔に比べて回数は減っているけど、無くなってほしい。なかなか自分から言えなくて、聞いてもらってほしい…。親としては、親が亡くなった後が心配だから、複雑やけど、あの子より後に亡くなりたいと思ってしまう…。親のわがままな思いやけどね。

今はホームも行ってちゃんと馴染んでいるので、このままでいいかなあと思って安心している。

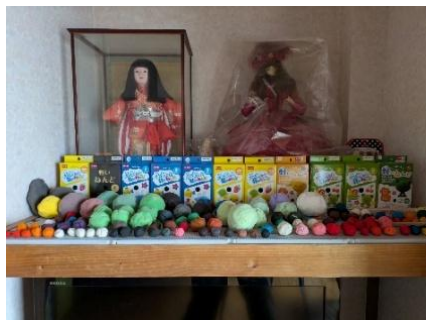


編集後記

もっと、幹人さんの作品を載せたかったけれど、スペースが不足…。もし良ければ、松が丘の「城文具店」へ訪問してご覧ください。



姉(左)、幹人さん(中央)、兄(右)
3兄弟の子どもの頃



幹人さんの作品の数々



城文具店

住所:高槻市松が丘1-9-14

電話:072-689-0661

(第4共働舎花の会 前田 恵津子)

職員の声 支援への思い

よしだ のぶこ
吉田 暢子 さん

吉田 暢子さんのプロフィール

- 🌸 2018年4月入職。
当初は第3共働舎花の会の就労移行支援事業（現在廃止）（以下「第3」と表記）に勤務されていました。
その後、2020年度に児童部門へ異動。
現在は放課後等デイサービス（以下『放デイ』）「さくらクラブ」の指導員として活躍されています。
- 🌸 ストレス発散方法はたくさん寝ることと、その時欲しいものを躊躇なく買うこと。
- 🌸 幸せだなと思うのは、家に帰ったら旦那さんとお子さんたちによってお風呂とご飯の準備が全て済んでいること、だそうです。



今回は、さくらクラブの指導員、吉田暢子さんにお話を伺いました。

Q 入職の経緯を教えてください。

吉田：友達が「ワークたんぽぽ」に入職したんですよ。それで、「やってみない？」って誘われて。「私でできるの？」なんて言いながら応募しました。最初は相談支援員を探してたみたいなんですけど、私は何の資格もないので、ちょっとそこは難しいってなって、第3を紹介してもらいました。

Q 第3で印象に残っていることってありますか？

吉田：中田さんに教えてもらったことは、全部ですね。中田さんには本当にいろんなことを教えてもらいました。特に印象的なのは、「仕事とプライベートは分けなさい」って言われたことかな。

あと、「すごくしんどくなった時は、何もしないで3日間休め。」とか。

なんかこう、福祉業界ってお休みも返上で呼ばれたら対応するべき、みたいな印象があるじゃないですか。まあ、もちろん時と場合にもよるんですけども、職員のことも大事にしてくれていたというか…、長く支援に携わるためにも、自分の身体やメンタルは自分でいたわらないと、って言うてくれたのは印象的です。

実際そういう自分のしんどさみたいなものには割と早めに気付けるようになって、立て直しも自分



でできるようになりました。

Q 所属が就労（部門）から児童（部門）へ。いかがでしたか？

吉田：第3がなくなる、次どうしようってなって…、成瀬さんとも何回か面談したんですけど。ほんとに最後の最後まで「さくらクラブ」に欠員が出るってわかって。

その時私は「放デイって何？」っていうくらい知識が無かったから不安もあったんですけど、最終的に異動することになりました。

さくらクラブの初日は、なんかすごく忙しかった覚えがあります。あと、移行（就労移行支援）って、メンバーは15時とか16時に帰るでしょ。しかも自分で来て自分で帰るのが当たり前だったんですけど、児童に来たら、「お迎えに行くの？」「何時までいるんだろう？」「え、帰りも送っていくの？」みたいな。

いろんなことにびっくりしました。なんかこう、一息つく間もなく、何も分からないまま、わーっと1日が過ぎていって。で、最初は、子どもたちが学校終わりに来るころだから、昼間はやるのがそんなにないと思ってたのね。でも午前は午前で事務仕事とかも結構いっぱいあって。事務が終わったら、送迎にばーっと向かうっていう…、とにかくスピード感に圧倒されてました。

Q 仕事の中で楽しいと思うのはどんな時ですか？

吉田：子どもたちと接していると、面白いなと思うことはたくさんありますよ。

お家では怒られるような言葉遣いや内容の話が出てくともありますけどね(笑)。ちょっとそういう話にも乗ってみたりとか。



あと、学校とかって、できたことを褒めると思うんですよ。でも、負の感情ってあるでしょ。泣くとか怒るとか悲しいとか…、

そういう素直な感情が出せているのを見た時は、なんていうか、笑ってるところを見た時よりも嬉しいかもしれない。自分の素の気持ちが出せたんだなって思っ。まあ悲しい思いをしてるんで、それについては切なくなるんだけど、後からじわじわ、あの時悲しいって気持ちが出せてよかったな〜って思っ。自分の思いや気持ちを出せないのって、やっぱりしんどいから。

Q 仕事で大変だなと思うのはどんな時ですか？

吉田：最近、支援の必要性が高い子どもたちの利用が増えてきているんですよ。中には他者への関わり方に難しさを抱える子もおり、その対応にいつも悩みます。

私はなるべくあまり難しく考えないようにはして…、事実だけを見るようにしようとは思ってますね。例えば、[今、お友達を噛んだ。]っていう場面があったら、「何かあったかな。何かやろうと思ったことを制止されたから噛んだんだな」っていう部分に意識して目を向けるというか…。いろいろ想像したり、この行動にはこういう背景が…みたいな。教科書に書いてあるようなことを考えるのも大事だとは思っんだけど、その場でそんなことは言っられないというか。実際その場に噛んだ子と噛まれた子がいるわけですから、一人ひとりを見て対応する力をつけていきたいなと思っています。難しいですけどね。

あと、放デイって、さまざまな特性を持つ子どもたちが共に過ごす場なんですけど、互いの違いが力となり、関係が豊かに育つこともあれば、関係がうまくかみ合わない場面があるんですよ。そうした場面に向き合う中で、「理解できる子が我慢する」という関係になっていないだろうかと立ち止まることがあります。一方向の負担に頼るのではなく、一人ひとりが安心して過ごせる環境をと思っけど、

難しいですね。

そうなる…、注意が理解できたり、状況を判断できる子の方が我慢する。それでいいのかな…って、そ



ういう葛藤は常にありますね。

この前「共働舎花の会」に実習に行ったんだけど、同じようなことは日中でもあるって聞きました。「一緒ですね?!」とか言ったりして。やっぱりなかなか構造化できないから…、どこもみんな苦労しますよね。

Q 今後の目標を教えてください。

吉田：うーん…、個人的には、心豊かに過ごしたいですね。今年で一番下の子の就職が決まって、みんな自立するんですよ。ここから自分のために、楽しいことをたくさんしたいなって思っ。だから、やっぱりそのためにも心身ともに健康でいたいかな。

仕事に関しては…、目標というか、こうなっていったらいいなっていうことなんですけど、児童部門全体でもうちょっとコミュニケーションというか、支援のこととかが話せたらいいのかなって思っ。コミュニケーションができていないわけじゃないんだけど。



やっぱり日常が忙しいから、一日を回すやりとりばかりになりがちというか…、目的とか課題に対して、「それを解決するためには、こうしていきたい」とか、「やってみたけど、いまいちだったね」とか、「じゃあ次はどうする？」みたいな話ができるようになるといいのかなって思っています。

編集後記

吉田さんとは同期入社であり、第3のことを思い出しながらお話ができたことも良かったなと思っインタビューでした。

就労移行(部門)・児童(部門)と、いずれも未経験ながらその現場にずっと馴染んでいく吉田さんの順応力に改めて驚かされます。

それぞれの場所で、自分の役割に真剣に向き合っこられたからこそなのだろうなとお話を聞きながら感じました。



(取材:田淵 彩子)



日中活動支援の報告 生活介護

天神まつり に「事業所連絡会」として出品しました！



2月25日(火)・26日(水)に行われた、冬の風物詩『天神まつり』。高槻事業所連絡会として、「ふれ愛たかつき」さん、「ジョブサイトひむろ」さん、「わ！きらきら」さん、「カフェ commons」さん・「時創福祉会」さんと一緒に花の会も自主製品の出品をしました。25日(火)はあいにくの雨でした。雨が降っていることもあり、日中は人がまばらでした。夕方からは雨が上がり、人が増えていきました。自主製品の出品はしていませんが「わかさ福祉会」さん、「やまびこ園」さんの方も交代で店番を行い、店番を

しながら職員の交流を行いました。

事業所によってはメンバーや実習生も参加していました。寒い中でしたが、全体で約260,000円の売上がありました！今後も、他法人の方とも力を合わせて盛り上げられたらいいと思います！！



(第2共働舎花の会 渡邊 朋幸)

『ふれあいレクリエーションスポーツの集い』に参加しました！

去る3月13日(金)、古曽部防災体育館にて『第36回ふれあいレクリエーションスポーツの集い』が行われました。花の会からは約50名ほどのメンバーが参加。高槻市内の他事業所や近隣の幼稚園からも参加があり、会場はとても賑やかでした。

フライングディスク・輪投げ・ストラックアウト・リズムゲーム・パタビンゴ・インディアカ飛ばし・インディアカ的あて・スリッパ飛ばしの8種目の競技を順に回っていきます。なかなかコツがつかめず難しいものもありましたが、果敢にチャレンジするメンバーの姿はとてもカッコよかったです。

最後は時間が足りなくなって1種目まわり切れず…、「やりたかった～残念!!」と悔しがるメンバーも。閉会式には、「はにたん」が来てくれていて、みんなで記念撮影をして楽しい時間を過ごしました。

ぜひまた来年も参加しましょう！



はにたんと記念撮影



スリッパ飛ばし



ストラックアウト



フライングディスク



(共働舎花の会 鹿子 恵美)



児童通所支援の報告

ご卒業・ご卒園、ご入学・ご入園、ご進学 おめでとうございます

窓から差し込む光に春の訪れを感じる今日この頃、子どもたちが何かに夢中になる姿を見るたび、日々の尊さを実感します。私たちが支援の根幹に置いている想いと卒業・卒園、入学・入園、進学される方へメッセージをお届けしたいと思います。

私たちの理念は「共に生きる」ことです。それは単に一緒に過ごすことではなく、障害の有無に関わらず、一人ひとりがかけがえのない権利を持つ主体として尊重される社会を意味します。子どもたちの小さな声や変化に耳を傾け、その尊厳を守り抜くこと。多様な個性が混ざり合い、誰もが「自分らしくいていいんだ」と安心して笑える場所であること。私たちはその使命を胸に、ご家族や地域の皆さまと手を取り合い、温かな社会を育てていきたいと思ひます。

**さあー、みんな楽しく前へ進みましょう。
新しい一歩を、そして新しい日々をご一緒に。**

「卒業・卒園おめでとうございます」

今おられる場所から、またまた前へ前へと前進ですね。次の進む場所も、あなたの場所です。その新しい場所をあなた色にしてください。あなたらしく、楽しく・明るく・元気な場所に！応援しています。たまには羽を休めに来てください。待っています。

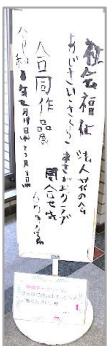
「ご入学・ご入園おめでとうございます」

新しいこの場所に来てくださったあなたへ。どんなあなた色にくださるのでしょう、どんな色にもなれますね。どんどん変わるあなたを見ていたいです。いつも隣で。さあー、みんな楽しく前へ進みましょう。新しい一歩を、そして新しい日々をご一緒に。

(あじさいクラブ 中川 朱美)

児童部門 作品展を開催しました。

2月19日(木)～3月4日(水)に高槻市役所総合センター1階エントランス(桃園ギャラリー)にて作品展を行いました。これまで桃園ギャラリー、えきちかギャラリーと作品を展示させてもらってききましたが、各事業所でテーマを決めて作るということは初めてでした。子どもたちの意見を聞き、アイデアを出し合いながら作りましたが、



3事業所とも温かみのある素敵な作品となりました。

作ることに興味なかった子も、自分の得意なことや好きな色を見つけると、瞳を輝かせて制作の輪に加わってくれました。一人ひとりの小さな「好き！」や「できる！」が積み重なり、大きな一つの作品へと形を変えていく過程は、まるで子どもたちの成長を見守っているかのようでした。皆で1つのものを作り上げるという経験は本当に素晴らしいことだと改めて感じました。

お忙しい中、見に来て下さった皆さま、ありがとうございました！

(さくらクラブ 山下 由香)

知識を「文化」へ、意識を「システム」へ。人権・権利擁護への思い
～大阪府障がい者虐待防止・権利擁護研修、虐待防止委員会に参加して～

昨年12月に開催された大阪府の虐待防止・権利擁護研修、また虐待防止研修や虐待防止委員会に参加する中で、虐待防止の根幹を支えるのは、職員一人ひとりの高い「知識」と「意識」だと、改めて思いました。意識の欠如は、本来救われるべき「声」を埋もれさせ、行政への通報を阻むリスクとなります。単に虐待を「取り締まる」という議論に留まるのではなく、それを実効性のあるものにする「確かなシステム作り」と、全

職員への徹底した周知が不可欠です。他法人の事例では、委員会の存在すら現場に浸透していないという課題も耳にします。花の会では4か月ごとに委員会を開催していますが、この学びを形骸化させず、委員会での決定や視点を児童部門の隅々まで届け、一人ひとりの権利が守られる組織作りに努めていきたいと思ひます。

(あじさいクラブ 石橋 洋平)

地域生活支援の報告

津之江北町

グループホームが間もなく完成します!!

昨年より建設を進めてきた津之江北町のグループホームが、ついに完成の時を迎えようとしています。現在は最終の検査段階にあり、真新しい建物のあちこちから、新しい生活の始まりを告げる輝きが感じられます。

今年1月の入居者募集では、定員6名に対し18名の希望者にご応募いただきました。選考を経て決定した新たなメンバーを迎え、いよいよ6月1日(月)に開所いたし



ます。

現在は、誰がどの部屋で過ごすかを定める「お部屋選び」を控えています。これから「フラワーホーム」、「ぽぱい」、「さくら」からの引っ越し作業も本格化し、ホームは活気あふれる準備期間に入ります。新しい生活が彩り豊かなものとなるよう、皆さまと共に歩んでいければ幸いです。

(フラワーホーム 徳野 裕季)

ガイドヘルパー受講からヘルパー登録、そして外出支援へ

ガイドヘルパー養成研修を受講されたヘルパーが、今回、メンバーの外出支援に入るため、同行を行いました。

今回ヘルパーが同行するのは、支援学校に通う児童さんです。ご自宅にお伺いし、ご家族と本人に挨拶をし、当日の行き先を確認しました。最初は受け入れてもらえるだろうか少し不安もありましたが、にこにことした表情で迎えてくれ、私達もほっとしました。

当日の行き先は、図書館へ行ってほしいと、ご家族の要望でした。

ご自宅から図書館までは住宅街を歩いて向かいました。時々車が通るため、飛び出しがないよう手をつなぎ、「止まれの手前で一旦止まろうね」と声をかけながら確認して進みます。こうした日常の中の安全確認も、継続支援の基盤となる大切な関わりです。

図書館では、乗り物の本や音楽のCDを手に取り



ながら行ったり来たり。外が気になる様子で池の見える場所へ向かうと、トキのような鳥が泳いでおり、しばらく景色を眺めながらお茶で一息つきました。気持ちが落ち着いたところで再び館内へ。迷った末に音楽のCDを選び、借りていた本は返却しました。返却時には、ヘルパーが手順を声に出し、やさしく伝える姿がありました。

帰り道、途中の公園で少し砂遊びもしました。「そろそろ帰ろうか」と声をかけると、気持ちを切り替えて帰路へ向かいました。

新規メンバーへの同行は、単なる付き添いではなく、支援の質を共有し、関わり方の方向性を確認する大切なプロセスです。ヘルパー一人ひとりの関わりが、事業全体の信頼へとつながっていきます。これからも、安心して利用していただける体制を大切に育てていきたいと思っています。

(サポートセンターはいびすかず 廣瀬 裕子)

お花見～楽しみな桜の季節

レスパイトでは、週末にメンバーと職員とでお出かけをします。行先をメンバーに決めてもらったり職員で打ち合わせをして、散歩などを楽しんでいます。運動不足気味の職員は、仕事で体を動かせることを感謝しています(笑)。

さて先日、耳原公園を歩いていたら梅の花が咲いていて、その横に池と桜の木があり、開花を待ちわびているようでした。

大阪の桜の開花予想は3月25日。原稿を書いている今の1週間後が見ごろ。シーズン到来にわくわくします。行楽シーズンを前に職員は喜んでいるのですが、メンバーは果たして興味があるのかな?と思



い、写真を撮って保護者の方に見てもらいました。「場所どこですか?」と聞いてこられ、その後に「私たちも行ってきました! 綺麗でした!」と会話が弾み、感動いたしました。以前はメンバーとおやつを作り耳原公園の桜の下で食べたこともあり、その味は格別でした。今度は昼ご飯を桜の木の下で食べたいものです。

この時期はどこを車で走っても「綺麗だね」とお出かけする楽しみが増えます。これからもメンバーと一緒に季節を楽しみたいと思います。

(花の会短期入所事業部(レスパイト) 長村 浩充)





就労相談支援の報告

「第28回 障がい者みんなの集い～はたらく、はたらこう、はたらきたい～」の報告

第28回「障がい者みんなの集い～はたらく、はたらこう、はたらきたい～」を、2月28日(土)に高槻市立障がい者福祉センター(ゆう・あいセンター)で開催しました。本イベントは、当事者による実行委員が中心となり、月1回の打ち合わせを重ねて企画・運営を行いました。「誰が何をしたいか」と話し合って役割を決め、特に総合司会は人気を集めるなど、主体的に取り組む姿が印象的でした。当日は、体験談の発表やマジック、○×クイズで大いに盛り上がり、会場は一体感に包まれ、約100名の参加者が笑顔で交流を深め



(高槻市障がい者就業・生活支援センター 太田 大樹)

ました。

会場では、勤続年数を聞いて称え合ったり、仕事の苦労に共感し合ったりする様子が見られました。「初対面同士ではありませんでしたが、言葉を交わす中で生まれたつながりが、今後働いていく上での励みになると感じられました。

そして「また参加したい」「来年はこれがしたい」といった声も多く寄せられ、次回への期待が高まる一日となりました。



「就労支援センター フォルツァ」の事業変更について

就労支援センター フォルツァは、2024年10月より第3共働舎花の会の従たる事業所として運営してまいりましたが、2026年4月からは新たに独立した事業所として立ち上がり、①就労移行支援、②就労継続支援B型、③就労定着支援、④就労選択支援の4つの事業を開始することとなりました。また、これまで実施してきた自立訓練は役割を見直し、終了することとなりました。これまで共に過ごしてきたメンバーの皆様、そして関係者の皆様に心より感謝申し上げますとともに、ご理解の程よろしくお願いたします。

就労移行支援では、就職に向けた訓練を行い、一人ひとりのペースに合わせて働く力を身につけていきます。一方で、就労継続支援B型は、「就職すること」だけを目的とするのではなく、日々の作業や人との交流を通して、社会とのつながりを感じながら過ごし

ていく場所です。フォルツァでは、地域の企業や関係機関とも協力しながら、自立した生活に向けた力を少しずつ高めていきます。その中でメンバーご自身が「こんなふうに働いてみたい」「将来は就職を目指したい」といった思いに気づき、自分なりの目標を築いていけるよう支援していきます。また、働くことだけでなく、日々の生活や人との関わりを大切にしながら、自分らしく過ごしていけるような支援も行っていきます。

働き始めた後も安心して続けられるよう、定着支援などを通して継続したサポートを行っていきます。一人ひとりの思いやペースを大切にしながら、無理のない形で社会参加を広げていけるよう、これからも取り組んでまいります。



(就労支援センター フォルツァ 古園 芳樹)

法人の報告

ご家族・友人など誘い合わせ、ご来場ください

花の会が大切にしている「共に生きる」という理念。これを地域の中で形にするため、今年も「富田ジャズストリート」に会場として参加いたします。2回目となる今回は、音楽的な要素を大切にしつつ、より開かれた「誰もが楽しめる地域の『お祭り』」として内容を大幅に充実させました。

前回の「音楽と模擬店の距離」という課題を改善し、ステージを囲むように飲食・遊びブースを配置することで、会場全体の一体感を演出します。本格派のキッチンカーや子どもに人気の模擬店、体験コーナーなど、ご家族で一日中楽しめる仕掛けが満載です。もちろん「音楽」の部分もパワーアップ！より身近に、音楽をダイレクトに感じていただけるよう、ステージを開放的なシャッター前へと移設。本格的なポップス等の生演奏、魂に響く和太鼓、そして情熱的なダンスが会場を彩ります。オープニングでは「さんぼ」などの手話コーラス

富田ジャズストリートが今年も花の会にやってきました！

JAZZ & FOOD & PLAY

花の会 富田ジャズストリート

～春の音楽まつり～

開催日時 2026.5.3(日) 10:30~16:00

開催場所 共働舎花の会 会場 (南平台3丁目29番9号 敷地内) ※雨天決行

内容 「音楽」「祭り」を一緒に楽しみましょう！

- ・第8回 富田ジャズストリート 会場
- ・各種模擬店、交流、遊びコーナー
- ・キッチンカー
- ・近所には、アクティビティ会場があるよ！どちらも楽しもう！

おまつり情報

- 体験、遊びコーナー
- バルーンアート体験
- 手作り(工作)体験
- 子どもくじ引き、ゲーム
- 血压・脈力測定、健康相談コーナー等
- 飲み物、ドリンク等
- たのしいイベントがいろいろありますよ！
- キッチンカーもたくさんありますよ！

アクセス

南平台3丁目西

バス停「南平台3丁目西」
※白鳥線・ハイウェイバスあり。

お問い合わせ 社会福祉法人花の会 共働舎花の会(牛島) ☎072-692-2859

富田ジャズストリート IN 花の会 2026.5.3(日)

会場：共働舎花の会 ステージ タイムテーブル

10:30 オープニングセレモニー
出演「花の会メンバー、ワーカー、ご家族有志」
第4共働舎のメンバーが中心になり、練習してきた、さんぼおどるぼんぼり。の手話コーラスを披露します！どなたでも飛び入り参加大歓迎！！舞台上がろう！

11:00 Sundari Mica BAND
2003年11月、日本人として初めてネパールで歌手デビュー。翌年当時の国王よりゴリカダンサンパ勲章4等を受ける。2011年ネパール観光年の民間観光大使をつとめた。2017年より活動拠点を日本に移し、音楽活動・ネパール支援活動を続けている。

12:00 ダンス・ダンス time!!
出演：Smhythm(スマリズム)
いつも麗やかで楽しくレッスンしています。今日も元気いっぱい笑顔いっぱい披露します！
出演：Shineez(シャイニーズ・スター)
シャイニーズスターのエネルギーが溢れるダンスを皆さまへ届けます！
出演：Shineez*(シャイニーズ・サン)
ダンスが大好きな気持ちいっぱい表現します！
出演：D-LIVE!!(ディーライブ)
何度も練習を重ねて新しいダンスでも取り組みました。心から楽しんで踊ります！

13:00 「激団モンゴイカ」
音ノコギリ、洗濯板、タライ、くし、ボトルなど身の回りの日用品を楽器にして演奏し、マジック、ダンスで客席を巻き込んでいく関西のパーティジャグバンド！「観て、聴いて、楽しめる」をモットーに今日もどこかの街でハッピーミュージックをふりまいています！

14:00 「和太鼓集 糸」
女性3人の和太鼓チームによる和太鼓パフォーマンス。華やかな演奏で盛り上げます。

15:00 「The Hokums」
ジャンル：Black バンドメンバー：Na(ギター/ボーカル) Yo(ギター) Kaede(ボーカル/Dan(ベース)、Chi(ドラムス)

15:45 「フィナーレ」・大抽選会!!

イベントアビール

- ・演奏を聴くのはもちろん無料！様々なチームの演奏、ダンスパフォーマンスが楽しめます！
- ・飲食ブースや遊びコーナーなど、楽しいアクティビティが盛りだくさん！
- ・小さなお子さまから、音楽好きな大人の方まで、みんなが楽しめるイベントです！
- ・イベントの最後に抽選会を行います。・豪華賞品？あるかも！ いえ、あります！
- ※プログラム及び内容は予告なしに変更になる場合があります。ご了承ください

を披露し、誰もが自由に飛び入り参加できる温かなステージを目指します。フィナーレには豪華景品が当たる大抽選会も開催します！

音楽や遊びという共通の言葉を通じて、地域の皆さまと笑顔でつながり、共に生きる喜びを分かち合いたいと願っています。

5月3日は、ぜひ花の会へ足をお運びください！お待ちしております！

(さくらクラブ 平田 昌史)

理事会・評議員会の報告

3月に理事会・評議員会が開催され、2026年度の事業計画等が承認されました。第4期中期計画の原案はできているのですが、練り直しが必要ということで、6月の理事会で再度審議することになりました。

報告事項では、「ワークたんぼぼ」の改装工事、外国人雇用の進捗状況、「共働舎花の会」の隣地購入後の進捗状況を報告しました。

次の6月の決算理事会、定時評議員会に向けて準備をしております。

理事会 議決事項

以下の事項について議決しました。

- | | |
|---------------------|-----------------|
| (1)2026年度事業計画(案) | (8)評議員会の開催 |
| (2)2026年度予算(案) | (9)育児介護休業規程の変更 |
| (3)2025年度第1次補正予算(案) | (10)共同募金の受領 |
| (4)定款変更 | (11)経理規程の変更 |
| (5)フォルツァ事業変更 | (12)法令順守規程の変更 |
| (6)給与規程の変更 | (13)給与計算システムの導入 |
| (7)対外的ハラスメント指針 | (14)第4期中期計画 |

(業務執行理事 成瀬 修)

2000年12月12日第三種郵便物承認
発行人 関西障害者定期刊行物協会 大阪市天王寺区真田山町2-2 東興ビル4階 毎月(1・2・3・4・5・6・7・8の日)発行 定価1000円